

# 「ナフサ不足」下における日本のサプライチェーンの動向

上席主任研究員 桑名 奈美

日本はナフサの中東依存度が高く、中東情勢の影響はしばしば「ナフサ不足」として語られる。ただし足元で生じているのは、単純な製品不足ではなく、ナフサ供給不安を起点としたサプライチェーン全体の需給調整である。本稿では、ホルムズ海峡封鎖後約3カ月の影響を、価格、輸入、生産、販売、在庫の動きから整理する。

**価格上昇は川上から川中へ波及：**企業物価指数では、3月はベンゼンなど特定の製品に限られた価格上昇が、4月にナフサのほか、エチレンなど多くの基礎化学品に拡大した。ポリマーや最終製品といったより川下への価格転嫁は4月時点では広く確認されなかったものの、既に値上げ発表は広がっており、5月分以降の統計で価格上昇の波及が確認される可能性が高い。小売価格への波及時期は不透明だが、原料高はまず川下企業のマージン圧迫や生産抑制として現れうる。その上で、価格転嫁の進展次第では、下流の需要減退が上流に波及する形で石化需要を押し下げる可能性がある。

**供給制約は製品別に吸収：**「ナフサ不足」の影響は製品ごとに大きく異なる。ナフサでは輸入減が目立つ一方、エチレンやブタジエンなどのモノマーでは、生産減を輸入増で補う動きがみられた。国内でのナフサ分解を補うため、海外からモノマーを直接調達する動きが広がった可能性がある。ポリマー・樹脂では在庫を活用しながら一定の販売が維持され、下流ではさび止めペイントなど予防的確保とみられる販売増により在庫が急減した製品もある。上流の供給制約は、輸入代替や在庫活用を通じてサプライチェーン上で一定程度吸収されているが、その現れ方は製品ごとに異なる。

こうした調整が進む一方で、全体としてはなお不確実性が高い。中東という大規模な供給ソースの不安定化を背景に、ナフサの供給になお不安が強い状態は続くと思われる。一方、国際市況をみると石化製品の採算悪化を受けて、需要側の購買姿勢が慎重化している気配がある。すなわち、一見需給がタイトでも需要が強いとは必ずしも言えない状況にある。

**焦点は「供給不足」から「需要減退」へ：**その上で、政府発表によれば5月は中東外ナフサ輸入が大幅に増加したため、短期的にはナフサ不足に伴う国内生産の落ち込みが改善に向かう可能性がある。ただし、平時よりも高値での輸入拡大が持続可能とは限らない。採算悪化を背景に、企業が割高な代替調達を継続できなくなる可能性があるためである<sup>(注)</sup>。足元の国際市況のナフサ価格の軟化も、こうした需給構造と整合的とみられる。

さらに、このような不確実性の高い市場環境では、在庫行動にも注意が必要である。不足懸念を背景に企業が過度な在庫積み増しに走れば、その後、原油・ナフサ価格が下落局面に転じた際、高値で確保した在庫が滞留し、将来のマージン圧迫要因となりうる。先行きが見通しにくい局面である一方、日本は相対的に潤沢な原油備蓄を有しており、予防的行動は行き過ぎると害となる恐れもある。今後は、代替輸入の持続性、在庫積み増しの反動、需要減退の波及を注視する必要がある。

注：日本の場合、高値圏の国際市況に加え、円安の影響も調達面での制約要因となりうる可能性がある。

## ▽主な製品の需給動向（上段：2026年3月、下段：2026年4月）

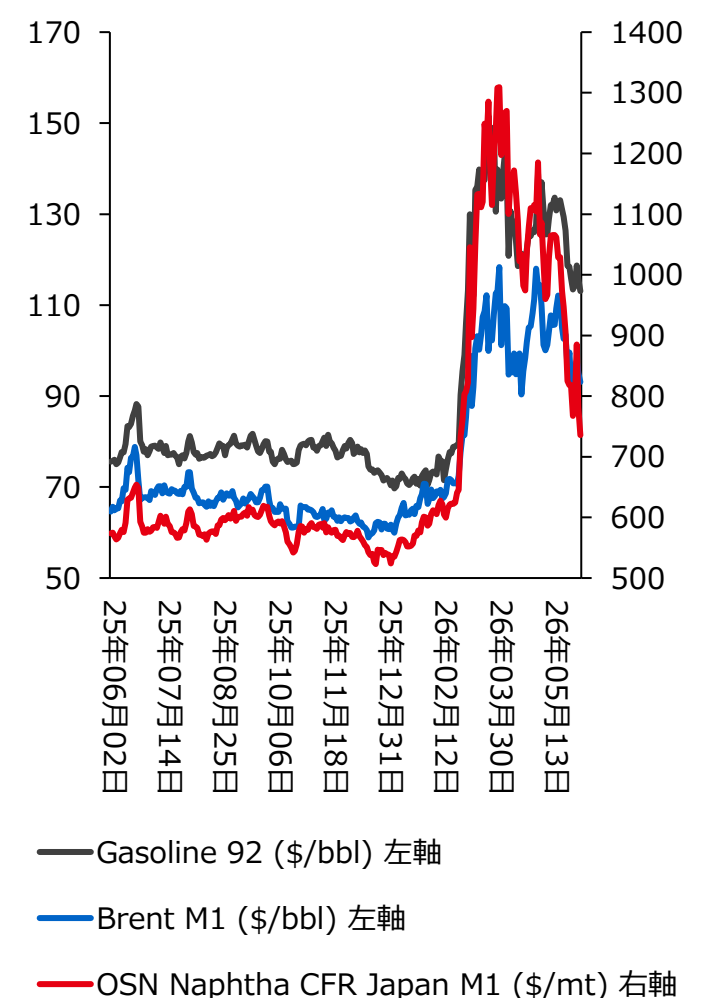
%は2025年の月平均比

段階	品目	価格	輸入	生産	販売	在庫
上流	ナフサ	→ (-3%)	↓↓ (-32%)	↓ (-9%)	↓↓ (-23%)	↓ (-17%)
中流 (モノマー)	エチレン	→ (-1%)	↑↑ (158%)	↓↓ (-36%)	↓↓ (-48%)	→ (-2%)
中流 (モノマー)	ブタジエン	↑↑ (40%)	↑↑ (109%)	↓↓ (-32%)	↓↓ (-29%)	↑ (12%)
中流 (モノマー)	ベンゼン	↑↑ (49%)	↓↓ (-100%)	↓ (-13%)	→ (3%)	↓ (-12%)
中流 (モノマー)	スチレンモノマー	↑↑ (42%)	—	↓↓ (-21%)	↓↓ (-30%)	→ (4%)
中流 (ポリマー類)	ポリエチレン	→ (-3%)	↑↑ (20%)	↓↓ (-46%)	→ (-4%)	↓ (-12%)
中流 (ポリマー類)	ポリプロピレン	→ (0%)	→ (4%)	↓↓ (-27%)	→ (-2%)	→ (-5%)
中流 (ポリマー類)	ポリスチレン	↓ (-7%)	↓↓ (-26%)	↓↓ (-20%)	↑ (9%)	→ (-4%)
中流 (ポリマー類)	塩化ビニル樹脂	→ (-1%)	↑ (11%)	↓↓ (-20%)	↑ (15%)	↓ (-9%)
下流	さび止めペイント	→ (1%)	→ (5%)	→ (0%)	↑↑ (28%)	↓↓ (-22%)
下流	強化プラスチック製品	→ (1%)	→ (1%)	↑ (9%)	↑ (5%)	↓ (-15%)

段階	品目	価格	輸入	生産	販売	在庫
上流	ナフサ	↑↑ (77%)	↓↓ (-40%)	↓ (-17%)	↓↓ (-38%)	↓ (-19%)
中流 (モノマー)	エチレン	↑↑ (62%)	↑↑ (1125%)	↓↓ (-34%)	↓↓ (-37%)	→ (-5%)
中流 (モノマー)	ブタジエン	↑↑ (70%)	↑↑ (216%)	↓↓ (-32%)	↓↓ (-25%)	→ (4%)
中流 (モノマー)	ベンゼン	↑↑ (64%)	↑↑ (860%)	↓↓ (-24%)	↓ (-14%)	↓ (-9%)
中流 (モノマー)	スチレンモノマー	↑↑ (62%)	輸入再開	↓↓ (-29%)	↓↓ (-27%)	↓ (-7%)
中流 (ポリマー類)	ポリエチレン	→ (-2%)	↑ (11%)	↓ (-19%)	↑ (6%)	↓↓ (-21%)
中流 (ポリマー類)	ポリプロピレン	→ (0%)	→ (-5%)	↓ (-14%)	↓ (-7%)	↓ (-7%)
中流 (ポリマー類)	ポリスチレン	↑ (16%)	→ (-3%)	↓ (-7%)	↑ (6%)	↓ (-10%)
中流 (ポリマー類)	塩化ビニル樹脂	→ (4%)	↑↑ (73%)	↓ (-16%)	→ (-5%)	↓ (-16%)
下流	さび止めペイント	→ (0%)	→ (2%)	↑↑ (21%)	↑↑ (30%)	↓↓ (-22%)
下流	強化プラスチック製品	→ (1%)	→ (4%)	→ (2%)	→ (-1%)	↓ (-14%)

(出所) 生産動態統計、貿易統計、企業物価指数、LSEGより丸紅経済研究所作成

## ▽ナフサなどの国際市況



※2026年6月5日までのデータ

(執筆者プロフィール)

**栞名 奈美** (Nami Kuwana)

KUWANA-N@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：金属、化学、エネルギー、LCA、サプライチェーン分析、市況分析、産業政策分析

日系金融機関を経て、2017年から鉄鋼系シンクタンクにて鉄鋼業を中心に環境・エネルギー政策や技術動向調査・需給分析を担当。2023年から丸紅経済研究所。主に金属・化学・エネルギー産業のサプライチェーン分析や環境・エネルギー政策分析などを担当。LCA学会削減貢献量研究会委員、削減実績量研究会委員。東京大学法学部卒業。

---

## 株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。